

カリオくんとなかまたち

奄美市立笠利小学校 二年 上地 うえち 絢翔 あやと

カリオくんは、あまみの海にすむオカヤドカリです。ある晴れた日、なかまたちと土もり海がんの白いすなはまで、かけっこをしてあそんでいました。海はきらきら光り、なみはザーザーとおしよせています。空には、アカシヨウビンがとんでいます。

みんながかけっこにむちゅうになっていると、「あ、見つけた。ここにいっぱいいる。つかまえよう。」と大きな声がして、かんこうきやくが近づいてきました。カリオくんたちはびっくりして、からの中にかくれました。

しかし、カリオくんとなかまたちは、あつという間につかまってしまいました。かんこうきやくは、カリオくんたちをかごの中にいれました。

「このままつかまりたくない。」

そう思ったカリオくんは、じぶんの小さなハサミをなんどもなんどもうごかしてかごのひもを切り、なんとかにげることができました。

「このままじゃ、なかまがどこかとおくへつれていかれちゃう。たすけないと。」

カリオくんは、オカヤドカリのなかまたちをたすけるために、いつしよに力を合わせてくれるどうぶつをさがしに出かけました。

まずむかったのは、森の中にすむ、アマミノクロウサギのクロくんのところでした。クロくんになかまがつれさられたことをせつめいすると、

「ぼくの耳で、かんこうきやくの足音をさがしてあげるよ。」

と言ってくれました。

つぎにむかったのは、アカシヨウビンのビンちゃんのところでした。ビンちゃんはきれいな声をもっています。

「わたしの声で、かんこうきやくの気をそらせてあげる。」

カリオくんは、その日のよる、さつそくなかまをたすけに行くことにきめました。

白いすなはまは月あかりでたらされていて、聞こえるのはなみの音だけでした。カリオくんとクロくん、ビンちゃんは、アダンの木の下で、ぶじになかまをたすけることができるようにいのりながら、しずかにまちました。しばらくすると、とつぜん、クロくんが耳をぴくとうごかしました。かんこうきやくの足音がしたのです。さくせんかいしです。ビンちゃんが海の方へとんでいき、とてもきれいな声でなきました。かんこうきやくは、月

あかりの中、音のした方へきよろきよろとしはじめました。そのすきに、カリオくんがなかまのかごへ近づきました。

「もうだいじょうぶだよ。もうすこしまっててね。」

いそいでかごのひもを切りました。

「今だ。みんな早くにげて。」

カリオくんがさけぶと、なかまたちはつぎつぎとかごのそとへ出ました。そこにはクロくんがまっていて、かんこうきやくに見つからないようにと海の方へあんないしてくれました。そうして、みんなはぶじに海までにげることができました。海のむこうには、ネリヤカナヤが光って見えました。

「力をかしてくれてありがとう。」

カリオくんは、クロくんとビンちゃんにおれいを言い、ほしのすなときれいな貝がらをプレゼントしました。

「まだどこかで会えるといいね。」

と言って、クロくんとビンちゃんはかえっていきました。

こうして、カリオくんとなかまたちは、きれいな海やアダンの木、白いすなはまにかこまれながら、元気いっぱいしあわせにくらしていくことができました。